

上田高等学校同窓会中南信支部会報

発行 上田高等学校同窓会 中南信支部事務局
題字 松岡翠鳳(仁太郎)氏 南安豊在任(39期) 全日展書法会副会長

会員の皆様へ 支部長 菅谷昭(60期)



皆様をはじめ会員諸氏のあたたかいご理解ご協力の下に順調に推移しており、改めて深く感謝を申し上げます。

毎月第一月曜日に開催されます定例の幹事会は、毎度話題に事欠かず、母校の動きから始まり、世界の動向、国内の政治、経済、教育、文化等について、更には地域の行事やまちづくりなど、先輩後輩の密なる意見交換の場として盛り上がり、時には、目下、基礎自治体の首長でもある私の市政運営に対する厳しいお小言も頂戴することもありますが、そこは同窓のよしみ、和気藹藹と時が流れています。

ここで、一つご報告を申し上げます。6月度の幹事会において、会計担当より「旅費規程」案が提出され、慎重審議の結果、了承されました。これらで本部・各同窓会・支部の総会等は、来賓参加の依頼を受けた方が、各自の支払いで参加していただきました。その

後、当支部会の財政状況もお陰様で好転して参りましたので、今後は本旅費規程に則り、旅費等を支給することとなりました。これまで総会等に出席の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しましたことにお詫び申し上げます。

ところで、去る7月27日から29日にかけて、「第23回国連軍縮会議」が松本市で開催されました。人口20万人規模の地方都市としては初めてであり、私は特に今回は、次代を担う若者たち、とりわけ高校生を中心にプログラムの参画を強く望んでおりました。お陰様で、最終日の特別セッション「高校生との平和・軍縮トーク」には、母校の後輩たちも堂々と発表してくれました。彼らにとつて、将来、国際社会で活躍していく上での貴重な財産になったものと思っております。

恒例の支部総会で多くの皆様とお会いできますことを楽しみにしております。

～第18回支部総会のご案内～

日時: 11月5日(土)

- 14:30 開場
- 15:00～15:45 第一部: 総会
- 16:00～16:45 第二部: 記念講演
- 17:00～18:45 第三部: 懇親会

会場: 松本ホテル花月

松本市大手4-8-9 電話 0263-32-0114

会費: ¥7,000 (学生の方は¥3,000)

今年度から会費を1,000円値下げしました。第一部のみ参加される方で、'11年度支部年会費1,000円を払われた方は無料です。返信葉書で出欠をお知らせください。



黒坂黒太郎: 環境講演とコカリナコンサート

コカリナ奏者 黒坂 黒太郎(正文)氏 (66期)



広島市の被爆樹で制作したコカリナのお話などと共に、矢口周美さん(奥様でヴォーカル・オートハープ奏者)とのコンサートでコカリナの美しい音色をご堪能ください。

- 略歴
- ・大学卒業とともに作詞、作曲、フォークシンガーの道に入る。
 - ・'95年 ハンガリーの笛をもとに、日本の木工家達と「コカリナ」を開発し、楽器として完成させる。
 - ・長野オリンピック表彰式('96)、国際平和シンポジウム('01 広島市)、北京オリンピック公式文化祭('06, '07)、ウィーンコンサート('08, '10)、コカリナ15周年コンサート('11 東京・美智子皇后ご臨席)など、年間110ステージのコンサートを展開中。
 - ・テレビ番組への楽曲提供、6枚のアルバムリリース等活躍中。

職場訪問 《FM長野》の巻

今回は、同窓生の皆さんも恐らく一度は聞いたことのある声の持ち主のお二人に話をうかがいました。お二人は長野エフエム放送株式会社放送部に所属し、アナウンス業務や番組のパーソナリティーとして活躍されています。

まずは、高寺直美さん(93期)です。高寺さんは上田市蒼久保の出身です。上田第一中学校時代は合唱部に所属していました。昔から美声の持ち主だったので、



高寺 直美 さん

アナウンサーまたは記者職を志望していた高寺さんは、大学卒業後、上田ケーブルビジョンに就職しました。全社を挙げて制作する「上田わっしょい」の生中継番組で実況を担当した時には、「その場にいるような臨場感があった」と視聴者の方からお褒めの言葉をいただき、たいへん嬉しかったです。

その後、縁あってエフエム長野に移り、今に至ります。素顔の高寺さんは、三歳のお子さんの母親でもあります。掃除好き(「本人は「こちやこちや」しているのが嫌いなだけ」とおっしゃいます)で友達の誕生日を忘れないという特技をもつ高寺さん。今日もニュースや番組を通じて、リスナーに「長野の今」を伝えていきます。

続いては、小林新(あらた)さん(99期)です。小林さんは佐久生まれで、小学生のときに上田市に引っ越ししました。

上田第五中学校時代から水泳部に所属し、上田高校時代は、得意としていた



小林 新 さん

自由形や個人メドレーで県大会に進みました。水泳部の部室はブル脇にあり、他の部の部室の建物とは離れていたため、良くも悪くも自由奔放な雰囲気だった、と小林さんは振り返ります。夏合宿では6時起床で、ラニングと1.5kmの遠泳をこなしからの授業。よく居眠りしてしまっていたそうです。

勉強では、「国語は大っきらい、理系のアタマ」とご本人がおっしゃるとおり、電気通信大学に進学しました。この大学に進学した理由は、実は、ラジオ放送業界への道が開けるのではないかと考えたのがあったからだそうです。小林

さんは中学生の頃からFMのラジオ番組を聴くようになり、パーソナリティーの赤坂泰彦さんに出会います。いつしか、自分も赤坂さんのようにラジオ放送に携わりたい、と思うようになったのです。

大学では情報通信工学分野を学ぶかたわら、高校まで練習を続けたクラシックピアノの腕前を活かし、ジャズ研究会で大学内や他大学のメンバーとのセッションやライブを楽しんだそうです。就職を考える時期になり、やはりラジオ放送の世界でパーソナリティーとしてやっていきたいという思いは強く、求人のあるラジオ局に応募する活動を続けました。しかしながら、元々会社の規模も大きくなく、新卒の定期採用を行う局もほとんどないラジオ放送業界ですから、求人自体が少なく、学友が内定をとりつけていくなかで、自分の就職は決

高寺さん・小林さんの番組のご紹介

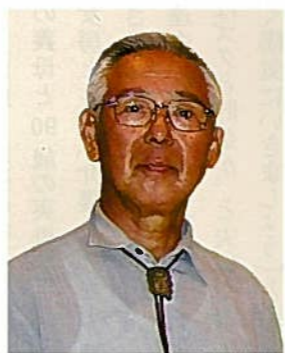
高寺さん
 ☆ Saturday D (サタデー デイ)
 毎週土曜 AM11:00~12:00(月の前半は 12:30 まで)

小林さん
 ☆ echoes (エコーズ)
 毎週月曜 PM4:00~6:55

☆ Good Morning Radio! (グッド モーニング レディオ)
 毎週金曜 AM7:30~10:49

「おひさま」と私

石田 益雄 (54期)



「や道祖神写真選集「安曇野の祈りと祭り」の拙著を読み返しながら、伝統的に今も残っている「祭り」の中から、「絵」になりそうな場面を再現するより術は無いと腹を決めた。

九月九日には、いよいよ担当者が来て、打ち合わせをすることになった。他のシーンの関わりも含めて、当日は三郷公民館の資料室に、依頼を受けた数人の面々が集まった。旧村誌編纂の折りに整理された昔の映像資料があるので、それを逐一点検しながら、使える場面を拾い上げてゆく根



国宝松本城 画 武村洋治(58期)

気の要る仕事。たった一枚の写真でも、時代考証の記録としての大切さを痛感させられた。

その後もEメールでいろいろな質問が飛び込んできた。「祭りの幟の仕様は、建て方は」「灯籠の飾り方は」「子供達の持つ『柳花』の作り方は」などから始まって「先生になった陽子(主人公)が家庭訪問で、嫌いなハチノコを山盛りに出されびっくりするシーン」などなど、いよいよ撮影を控えて具体的に細かな考証が必要になってきた。その都度、写真やイラ

ストを送って参照して貰った。「道祖神石像は二基置き、子供達に色塗りをさせたい」と言う。本来、道祖神碑は一集落に一基が原則であろう。しかし、新旧の二基が、或いは数基が合祀されている例も有って、撮影現場近くの堀金地区岩原の上手村でも「文化十四年」の像碑と「平成二年」の道祖神文字碑が同じ覆い屋の中に併祀されている。となると、二基の道祖神碑が並んでいても必ずしも異例だとは言えない。画面の構成からすればかえってインパ

クトが出るのかも思う。この村の石材店が造った二基の新しい道祖神碑を置きたいと言う。

九月末のEメールで、いよいよ道祖神祭りのシーンの撮影日程が決まったとの知らせが来て、当日はアドバイザーとして現地で立ち会ってくれとの事。



おひさま道祖神と水車小屋と

十月十六日は午前十一時頃、穂高の総合支所(旧役場)に行く。スタッフ数人と大勢の地元の子供達が太鼓を先頭に、祭りの囃子を叫びながら通り過ぎて行くシーンの撮影。リハーサルを何回か繰り返してから、「はい、本番」。カメラの背後には見物の村人や子供エキストラの保護者などが詰めかけていて、緊張した撮影風景を見守っていた。

翌十七日。もう一つの現場は、数百メートル北「山口家」の近く。

昨年(の)八月の中頃、安曇野市の役所から電話が入った。「NHKからの依頼で、道祖神について指導を願いたい」とのこと、協力頂けるかと。この種の依頼は大抵「こうしたルートから入ってくる。むげに断るわけにも行かない話で、引き受ける事にした。

さっそく担当ディレクターなる人物から「昭和七年頃の道祖神祭りを知りたいので取材に応じて欲しい」と言ってきた。新しい企画の「連続テレビ小説」の主人公が、子供の頃に参加した道祖神祭りの様子を知りたいと言う。昭和一年頃の物語なら主人公は大正末年頃の生まれになる。とすると、その頃の記憶が確かな老人はそう多くは無い。まして昭和二年で上田・小泉生まれの身に解らう筈も無いのだが、安曇野を巡り歩いて書いた「道祖神をたずね



道祖神の色塗り

ここで、引越してきた「須藤家」も村人に招かれて、「良一」「絃子」夫妻は宴席に加わり、主人公「陽子」も、村娘「ユキ」に誘われて道祖神に色塗りをする。兄の「春樹」は幟を飾り三人娘に慕われ、「茂樹」は子供相撲に熱戦を展開するシーン。

これだけの撮影に晩秋の二日ばかりであった。さて、この四月五日の放送となると、ほんの数十分とあったところか。多くの時間と人の労力が要る映画作りの裏側を見せてもらった。

深澤 昌美 (49期) 箕輪町

「80歳までコンペ参加。85歳までプライベートゴルフ」を目標に毎日1時間20分、8千5百歩を頑張っておる79歳です。

林 庄平 (52期) 下諏訪町

幼稚園児の孫の成長を見る中で、自分の老い加減を逆算してみる。この幼い人達に壮大な未来を展開させるには、大きな大人達の課題を感じつつ。

大口 静雄 (59期) 松本市

仕事とゴルフに夢中(?)元氣です。

丸山(伊藤) 勝彦 (61期) 安曇野市

9人が増えた孫の相手、94歳の養母と90歳の実母の世話を女房として、「介護とは」と考えさせられます。「増えるのは私達夫婦の診察券と疲れ。減るのはズクと貯金か。と夫婦で明るく陽気にいきましよう」とお笑い芸人のネタを参考に...

前澤 隆男 (64期) 松本市

松本市教育会で教職員の皆さんと接しながら感じています。日本的な農耕社会の世界観は遊牧社会の世界観に根底から変貌しつつあると。

松尾 恵子 (70期) 辰野町

中間教室で不登校の子ども達と生活して12年になりました。卒業生達ともずっと長いおつき合いを続けています。子ども達の成長を感じる時がうれしい。



石川 久雄 (76期) 松本市

50歳になり、10代の元氣だった頃をなつかしく思い出します。会報に描かれた武村洋治さんの画が、ほのぼのとしていてとても好きです。

梨子田 雅直 (79期) 松本市

高校時代の軟式庭球班のベア(安曇野市在住)と卒業30年目を記念して、昨年の7月の県選手権に出場しました。

宮崎 達也 (81期) 松本市

昨年の4月に筑摩野中学校から清水中学校に異動になりました。野球部出身で中学野球部顧問が多く、毎年OB会後援で交流会をやっています。

三澤(旧姓 滝之入) 文 (85期) 小谷村

梅池高原スキー場のグレンデサイドの宿に嫁いで早や16年。昨年末に宿を改装、リニューアルオープンしました。

近藤 沙織 (96期) 松本市

昨年の6月より、相澤病院から信大病院へ異動しました。環境が変わりましたが、仕事にも慣れてきました。趣味の楽器演奏(コントラバス)を続けています。

企画展のお知らせ

真道 茂 (54期)

真道 茂 (昨日、今日、明日) 展

11月12日(土)~12月11日(日) (月曜休館)

11月20日(日) ギャラリートーク PM1:30~

真道茂, フルート演奏 桂聡子

於 諏訪市美術館
後援 信濃毎日新聞社
長野日报社
諏訪市民新聞社
LCV (エルシーブイ)
協力 かたくりの会



職域新幹事のご紹介

県職

坂田 浩一 さん (77期:松本建設事務所維持管理課)

八十二銀行

大石 秀樹 さん (82期:松本営業部)

長野銀行

尾和 一成 さん (96期:本店営業部)

高校 OB 対抗ゴルフ大会初参加の報告

吉村 哲郎 (66期)

掲題のゴルフ大会が7月6日豊科カントリー倶楽部で開催された。中南信支部からも是非参戦して上田の名を知らしめよという影の聲に圧され、4名の精鋭が推挙され参加した。諏訪の闘将 高藤勝雄氏(58期)、今もハンディ5を維持する大口静雄氏(59期)、気配りのムードメーカー 久保田信二氏(61期)と小生である。

当日は県内15校の27チームが覇を競ったが、我々上田 A チームは初出場ながら全体で6位、シニアの部(全員60歳以上)で準優勝という輝かしい成績を勝ち取った。今後も「ゴルフ中信(中心)上田会」(詳細はお問い合わせ下さい)の発展と来年の更なる上位を目指すのみである。

なお、66期の若手(?)でまとめた上田 B チームは全体で11位、シニアの部で4位であった事も書き添えます。(ニヤッ!)